

【個人研究の部】

学びの轍を意識しながら、自己実現を目指す児童の育成

～ キャリア教育で育成すべき自己理解・自己管理能力の視点に立った
各教科等における指導の実践を通して～



日向市立平岩小学校
教諭 黒木 龍

研究主題

学びの轍を意識しながら、自己実現を目指す児童の育成

～ キャリア教育で育成すべき自己理解・自己管理能力の視点に立った
各教科等における指導の実践を通して～

主題設定の理由

平成13年、文部科学省科学技術政策研究所は、全国18歳以上の男女3000人を対象に、わが国の学校教育の定着度（科学技術の基礎的概念理解度）を調査する目的で「科学技術に関する意識調査」を行った。質問項目には以下のような設問があった。

- Q20 光と音はどちらが速いと思いますか。
1 光 2 音 3 どちらも同じくらい 4 わからない
- Q21 地球が太陽の周りを回っていますか、太陽が地球の周りを回っていますか。
1 地球が太陽の周りを回っている 2 太陽が地球の周りを回っている
3 わからない

いずれの項目も、中学校や高校の授業の中で学習した内容であるはずだが、その正答率を諸外国と比較してみると、日本の子ども達の平均正答率（共通問題10問）は51%と下位の方であった。この結果について、現文部科学省教科調査官の長田徹氏は、学びに対する興味関心の希薄さ、将来との関連性が見えないままでの学び、受験終了後に剥落する「知」の危険性の3点が関係していると指摘している。つまり、科学などの事象が「受験のための学び」になっており、学校教育を受けている間は、「受験に必要な知識」として定着しているが、なぜそうなるのかや、その学習が何につながるかということを見ることが児童生徒が理解していなかったり、教師が指導していなかったりするため、受験終了後にはそれらの知識が剥落していくのではないかと考察している。

一方、そのような子どもたちが巣立っていく社会に目を転じると、その変化は年々激しさを増し、ニート、フリーター、SNEPの増加や、若者の高い離職率などが社会的な問題となっている。このような問題の背景として、一般社会で必要とされる能力の不足、職業観・勤労観の未熟さなどが指摘され、学校と社会との接続が課題となった。その接続を円滑に行うために登場したのがキャリア教育であり、その望ましい指導の在り方が、今、求められている。先に述べた長田氏が指摘する「なぜ学ぶのか」や「その学習をすることが将来どのような役に立つのか」という、キャリア教育を進める上で大切な部分については、各教科等をはじめ、学校における教育活動の様々な場面で指導することができると考える。

本校では、昨年度より、キャリア教育の充実をテーマに主題研究を進めている。児童生徒の実態分析を行った結果、基礎的・汎用的能力の一つである「自己理解・自己管理能力」の部分（「何事も最後まであきらめずにやり遂げる」「やればできると前向きに考える」）に、どの学年も落ち込みがあることが分かった。そこで各学年とも、キャリア教育を進める上で「核となる体験活動」を様々な教科と関連づけて設定し、長いスパンで指導していくべきことや、1単位時間の中で指導していくべきことなどについて共通理解を図りながら研究を進めているところである。

そこで、本研究では、キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力の一つである自己理解・自己管理能力の育成に重点を置きながら、「自分に自信をもち、自分の思いや考えを表現する児童」「学びの轍を意識しながら意欲的に学習に取り組む児童」と、2つの目指す姿を思い描きながら研究を進めていきたい。これらの児童の姿に迫るために、第6学年の核となる体験活動である『総合的な学習の時間「夢に向かって」』での指導を研究の中心とし、見通しをもった学習指導過程の工夫や、自己表現する場の意図的な設定等の実践を積み重ねていくことで、学習のつながり（学びの轍）を感じながら、自分の思いや考えを意欲的に表現する児童を育成できるのではないかと考え、本主題を設定した。

研究の目標

核となる体験活動を中心にして、学習のつながりを意識した活動や掲示物の工夫、ペア学習やグループ学習を意図的に取り入れた授業実践を行い、自分の思いや考えを自信をもって表現し、学びの轍を意識しながら意欲的に学習に取り組ませるための効果的な指導の在り方について究明する。

研究の仮説

児童が学習のつながりを実感できるような活動や掲示物を工夫したり、自分の思いや考えを恥ずかしがらずに表現したりする場をより多く設定していけば、自分の思いや考えを自信をもって表現したり、学習に意欲的に取り組んだりすることができるであろう。

研究内容

- 1 学習のつながりを意識した指導計画シートの作成及び授業実践
- 2 ペアやグループにおける表現活動の工夫
- 3 見通しをもって活動することを支援する掲示物の工夫

研究の全体構想

日本国憲法
教育関係法規
県・市教育委員会

本校の教育目標
豊かな心を持ち、賢く創造性に富んだ、
たくましい日向市の子どもの育成

児童生徒の実態
地域や保護者の
願い

本校の主題研究の研究主題及び副題

将来の夢を持ち、主体的に自己実現をめざす児童生徒の育成
～キャリア教育の視点に立った各教科等における指導法の工夫～

本校のキャリア教育の全体目標

将来の夢に向かって、主体的に自己実現をめざそうとする児童生徒の育成
集団や他者との関わりの中で自己の役割を理解し、意欲的に課題を解決できる。
やればできると考えて行動できる。
目標をもって粘り強く努力することができる。
働くことや学ぶことの意義を理解し、進んで自分の夢に向かって努力できる。

主題研究との関連

本研究の研究主題及び副題

学びの轍を意識しながら、自己実現を目指す児童の育成
～キャリア教育で育成すべき自己理解・自己管理能力の視点に
立った各教科等における指導の実践を通して～

目指す児童の姿

自分に自信を持ち、自分の思いや考えを表現する児童
学びの轍を意識しながら意欲的に学習に取り組む児童

研究の目標

核となる体験活動を中心にして、学習のつながりを意識した活動や掲示物の工夫、ペア学習やグループ学習を意図的に取り入れた授業実践を行い、自分の思いや考えを自信をもって表現し、学びの轍を意識しながら意欲的に学習に取り組ませるための効果的な指導の在り方について究明する。

研究の仮説

児童が学習のつながりを実感できるような活動や掲示物を工夫したり、自分の思いや考えを恥ずかしながら表現したりする場をより多く設定していけば、自分の思いや考えを自信をもって表現したり、学習に意欲的に取り組んだりすることができるであろう。

研究内容

- 1 学習のつながりを意識した指導計画シートの作成及び授業実践
- 2 ペアやグループにおける表現活動の工夫
- 3 見通しをもって活動することを支援する掲示物の工夫

研究の実際

1 研究の基本的な考え方

本校では、「将来の夢をもち」「主体的に自己実現をめざす」「キャリア教育の視点に立った各教科等における指導法の工夫」という文言について、以下のように整理している。

<p>「将来の夢をもち」</p> <ul style="list-style-type: none"> 9年間の学校生活の中で、自分自身を理解し、自分自身のよさや可能性を探っていく中で、それぞれの将来の夢をもち、最終的には、自分自身で、自分に合った将来の姿を決定していく力をもつこと。
<p>「主体的に自己実現をめざす」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が決めた将来の姿に向かって、今、何をすべきか自己管理を行い、粘り強く、やればできると自信をもって努力すること。
<p>「キャリア教育の視点に立った各教科等における指導法の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の基礎的汎用的能力「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力の育成をめざす視点に立って、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導法を工夫し、実践することで、児童生徒の変容をめざすこと。 本校では、児童生徒の実態を踏まえ、上記の4つの能力のうち、特に「自己理解、自己管理能力」の育成に関する研究について重点的に取り組んでいく。

2 研究内容の具体的な実践

(1) 学習のつながりを意識した指導計画シートの作成及び授業実践

キャリア教育年間指導計画

〈 6 〉年

(A) 人間関係形成・社会形成能力	・相手の感情を理解する力、相手に働きかける力 ・コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップなど
(B) 自己理解・自己管理能力	・自己の役割の理解、・周囲に考えろ力、・自己の動機付け ・忍耐力、・ストレスマネジメント、・主体的行動 など
(C) 課題対応能力	・課題の理解、理解、克服など、・本質の理解、・問題の把握 ・課題発見、・問題発見、・実行力、・採択、改善等
(D) キャリアプランニング能力	・夢のこと、働くことの意味や役割の理解、・夢後の理解 ・将来設計、選択、行動と改善等

本校では、昨年度、キャリア教育を進めるにあたり、児童生徒の実態把握を行った。その結果「何事も最後まであきらめずにやり遂げること」や「自分はやればできると思うこと」といった自己理解・自己管理能力の部分において、各学年とも落ち込みがあることがわかった。そこで、基礎的・汎用的能力の一つとされる自己理解・自己管理能力の育成を中心に据えて研究を進めていくこととなった。そのため、キャリア教育全体計画をもとに、各学年部で「核となる体験活動」を位置づけ、キャリア教育の4つの能力（基礎的・汎用的能力）を育成することにかかわるとされるものを、各教科、道徳、特別活動の学習の中から洗い出し、キャリア教育の年間指導計画（写真）を作成した。

月	教科	道徳	特別活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> 表現を工夫して書こう（国語）(A) いろいろな表現の工夫を知り、表現の効果を考えよう。 自分の考えを明確にしながらか読もう（国語）(C) 意図の主張を読み取って、それに対する自分の考えを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さを伸ばしてわたしは、わたしらしくー熊田千佳穂（B） 自分の良さを知り、積極的に伸ばしていこうとする態度を育てる。 困難を乗り越えて伊能忠敬（B） より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないうで努力しようとする心構えを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒部大議会の話し合い（C）
5月	<ul style="list-style-type: none"> 学校の良さを宣伝しよう（国語）(A) 根拠や理由を明確にして、聞き手の印象に残るように工夫して話す。 きれいにしようクリーン 	<ul style="list-style-type: none"> 節度を守る「分かってるよ」(B) 自分の生活を見つめ、節度を守り、節制しようとする態度を育てる。 責任ある行動 	<ul style="list-style-type: none"> 学級目標づくり（D）

写真 【キャリア教育年間指導計画】

そのような昨年度の流れを受けて、今年度は、引き続きキャリア教育に関する理論研究を進めることはもちろん、昨年度作成したキャリア教育の年間指導計画をもとに実践・検証していくことを主な研究内容としてスタートした。

しかし、実践を進める中で、キャリア教育の全体目標と各学年の内容の整合性が図れていなかったり、せっかく作成した年間指導計画がうまく活用できなかったりという課題が見えてきた。そこで、10月の主題研究会を使って、各学年、各教科で、何を、いつ指導するのが一目でわかる指導計画シートを作成することになった。シートには、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の単元名や主題名、テーマ名を入れたものの中に、各学年の「核となる体験活動」や特色のある活動などをまとめていった。

完成したシートを見て、キャリア教育にかかわる行事や学習、活動をチェックしていけば、その学年でキャリア教育を通して育てたい力を、いつ、どの教科で進めればよいかかわり、それを1年生から9年生まで横に並べると、各教科の系統性やつながりも確認できる。さらに、キャリア教育だけではなく、例えば、食育や情報教育、人権教育などがどうつながっているかという場合にも活用することができるものとなった。

以下に、指導計画シート（図 ）を活用した具体的な授業実践を紹介する。

本校の第6学年の「核となる体験活動」は、総合的な学習の時間を中心に進めている。小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編の第2章には、「自己の生き方を考えることができるようにすること」として、以下の3点が示されている。

人や社会、自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考えていくことである。社会や自然の中に生きる一員として何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。
 自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えていくことである。取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、また、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。
 、 を生かしながら、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることである。

このねらいを踏まえた上で、年間指導計画シートを活用しながら、以下のような指導計画を立てた。

導	<p>9月28日(なぎさタイム：1時間) 「先輩の体験から学ぼう」(7年生との交流学習) (ねらい) ・ 7年生の職場体験学習のまとめを聞き、働くことの楽しさや大変さ、やりがい、今のうちから意識しておいた方がよいことなどを知る。</p> 	<p>(本テーマの学習にかかわる主な活動及び学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝のスピーチ 「10年後の自分は何かしているだろうか？」 「私が目標にしている人とその理由」 ・道徳 困難を乗り越えて資料「伊能忠敬」
入	<p>10月11日(ふるさと：1時間) 「平岩の歴史を守ってきた人たちの思いを知ろう」 (ねらい) ・ ふるさと学習で学んできたことで、自分たちでは調べられなかったことについて、地域の方(達人)にインタビューし、平岩の歴史に対する理解を深めたり、どんな思いで歴史を守り続けているのかを考えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語 「海のいのち」 ・図工 「12年後のわたし」
展	<p>11月28日(なぎさタイム：2時間) 「人とかがわって働く姿を見学しよう」(職場見学) (ねらい) ・ サンマリン日向の方々が、高齢者の方とかがわりながら仕事している様子を見学したり、実際に高齢者と交流したりすることを通して、人とかがわることの楽しさや難しさ、介護士の仕事のやりがいなどを考えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事 「陸上大会」 「修学旅行」
開	<p>12月13日(なぎさタイム：1時間) 「輝いている人ってどんな人？」 (ねらい) ・ 「輝いている人」とはどんな人が、自分達の考えを出し合う中で、なぜその人たちが輝いているのかや自分たちがもっと輝くためにはどうしたらよいかを考え、本テーマの課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭 「家族と楽しく食事をしよう」
前	<p>1月上旬(なぎさタイム：5時間) 「輝いている人たちのひみつを探ろう」 (ねらい) ・ 「自分の周りで輝いている人たち」と、対象を限定し、身近なところに目を向けさせ、なぜその人が輝いているのかを探るための活動計画を立て、自分の課題に沿って調べ学習を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語 「ふるさとのよさを紹介しよう」
半	<p>1月中旬～下旬(なぎさタイム：2時間) 「輝いて生きていくため、自分にできること」 (ねらい) ・ 調べたことを整理・分析し、自分の生き方に活かしたいことについて中間まとめをし、意見交流をする。</p>	

展開後半	1月中旬（なぎさタイム：3時間） 「様々な職業の方の話から生き方を学ぼう」（仕事に関する講話） （ねらい） ・ 職種の異なる方々から、直接、仕事や職業観に関する話を聞くことで、働くことについての理解やこれまでの学びを深める。	・ 道徳 働くということ
	2月中旬（なぎさタイム：3時間） 「中島鉄工所での体験から生き方を学ぼう」（出前授業） （ねらい） ・ 生産活動に取り組む企業の方の話の聞いたり、実際の仕事の様子を見学したりすることで、働くことについての理解やこれまでの学びをさらに深める。	・ 家庭 「成長した私たち」
終末	2月下旬（なぎさタイム：2時間） （ねらい） 「学習をふりかえり、自分の夢、将来について語ろう」（発表会） ・ 学習をふり返し、自分の夢や将来について、資料をもとに発表する。	・ 道徳 くじけず努力する

本学習の導入では、7年生の職場体験学習の発表後、「働くためには人とかかわり方が重要」ということを多くの児童が感じ取ったことを想起させた。そして、身近なところで、多くの人とかかわりながら仕事をしている方がいる職場として、学校の近くにある居宅介護支援事業所「サンマリン日向」を紹介し、実際に介護士の方々が働いている様子を見学させてもらったり、高齢者の方々とゲームに参加させてもらったりしながら、体験を通して人とかかわることの大切さはもちろん、その仕事の難しさや楽しさに十分触れさせるようにした。



体験活動後に書いた児童の感想の一部を紹介する。

介護職員の方々は、おじいちゃんやおばあちゃんに分かりやすい大きな声と笑顔で話していてすごいと思いました。周りの人を笑わせたり、話しかける人によって声の大きさを変えたりしていたのでびっくりしました。

介護職員の方々は、おじいちゃんやおばあちゃんのことをとても大好きなんだなと思いました。わたしはおじいちゃんやおばあちゃんとあんなふうに接したことがなかったのでとても楽しかったです。

介護職員の方々は、笑顔でおじいちゃんやおばあちゃんに接していて、見ているぼくたちも明るい気持ちになった。

ゲームはちょっと恥ずかしかったけど楽しかった。お年寄りの方の歌がうまくてびっくりした。また会えたらいいなと思った。

介護職員の方々は、にこにこ笑顔で、おじいちゃんやおばあちゃんと接していた。おじいちゃんやおばあちゃんとあまり接したことがなかったので、とてもいい体験になった。



次に、展開前半では、「輝いている人ってどんな人だろう？」という投げかけをし、自分達が考える「輝いている」と思う人について、自由に意見を出させた。そして、なぜその人たちが輝いているのか、その人たちの「生き方」に着目させ、本テーマを貫く課題設定を行っていった。以下は、学習のつながりを意識した手立てを1単位時間の中に散りばめた、その時間の具体的な授業の記録である。

段階	主な学習内容及び学習活動	学習のつながりを意識した手立てや活動
つかむ	<p>1 本時学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「輝いている人」と聞いて思い浮かべる人をワークシートに記入する。 ワークシートをもとに、人物名を発表する。 <p><u>予想される児童の考え</u></p> <p>両親 兄姉・姉妹 三浦知良 田中将大 サンマリンの方 友達 お笑い芸人 アイドル 地域の方々</p> <p>2 本時のめあてを知る。 めあて <u>「かがやいている人」とは、どんな人が考えよう。</u></p>	<p>学習のつながりを意識した手立てや活動</p> <p>児童の思考が停滞した際に、11月に行われた修学旅行でお世話になったバスガイドの方の写真を提示した。その写真を見て「ああ！そういうことか」と鉛筆が動き出す児童が見られた。</p> <p><u>学校行事とのつながりの想起</u></p> <p><u>出された児童の考え</u></p> <p>吉田さおり 田中将大 本田圭輔 ふなっしー パティシエの芋生さん 父 友達 オリンピック選手</p>
追究する	<p>3 ワークシートに書いた人物についてグループで意見交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が輝いていると思った人物と、なぜその人が輝いていると思ったのか、グループ内で発表し合う。 発表後、どんな人が輝いている人なのか、グループで自由に話し合う。  <p>4 グループでの話し合いをもとに、全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>輝いている人とはどんな人なのか。</u> <p><u>予想される児童の考え</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなことをしている人 誰かのために一生懸命頑張っている人 みんなができないことができる人 まじめに努力できる人 など <p>5 サンマリン日向での職場見学を思い出し、全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護士の方々はどのように仕事をされていたか。 <p><u>予想される児童の反応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 笑顔で楽しそうに仕事をされていた。 自分だけでなく周りの人も楽しませていた。 お年寄りの方がいやな気持ちにならないよう工夫していた。 	<p>めあてを解決するために「どのように進めたいか？」と確認したところ、「まずはグループで話したい」ということであった。教科を問わずペアやグループで考えを交流する機会を何度も設定してきたことが活かされていた。</p> <p><u>ペアやグループでの話し合いの場の意図的な設定</u></p> <p>型にはまった話し合いではなく、ペアで単に自分が考えていることを伝え合ったり、グループで全員の意見を1つにまとめたり、KJ法のように意見を分類したりする経験を積み重ねてきたため、スムーズに話し合いができていた。</p> <p><u>様々な形態の話し合いの積み重ね</u></p> <p><u>出された児童の意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 努力をしている人 明るく人を助けられる人 夢を達成した人 あきらめないでがんばっている人 <p><u>共通体験(前時)の想起</u></p> <p><u>出された児童の意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> いつも笑顔だった。 誰にでも優しく話していた。 全てのことを楽しんでいた。 失敗を笑いに変えてみんなを楽しませていた。

追
究
す
る

- 6 自分たちのことについて振り返る。
 - ・ 「自分は今輝いていると言えるか？」と投げかけ、これまでの轍(キャリア)を想起させる。
 - ・ 4月からの児童の活動の様子などで教師が「輝いている」と感じた写真や動画を紹介する。
- 7 今後の学習の課題について話し合う。
 - ・ 今後の活動の見通しを紹介し、本テーマを貫く課題を設定する。



4月からの学びの轍の想起

本時の学習と今後の学習のつながりの提示

例) かがやいている人のひみつを探ろう!

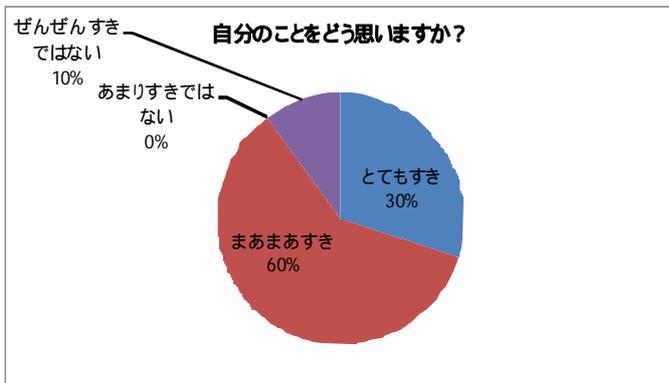


出された課題

- ・ どうすれば自分達はかがやけるのか
- ・ かがやいている人は、これまでどんな積み重ねをしてきたのか
- ・ どうすれば、人からかがやいていると思われるのか

本授業で出された課題をもとにしながら、児童一人一人に具体的な課題を持たせ、3学期さらに実践を進めていきたいと考えている。

(2) ペアやグループにおける表現活動の工夫



4月当初に「自分のことをどう思いますか?」について児童にアンケートをとったところ、左図のような結果となった。9割の児童が自分のことを好意的に受け止めている反面、1割の児童は大変自己肯定感が低いということがわかった。「まあまあすき」「ぜんぜんすきではない」と答えた児童の理由は、「みんなにどう思われているか心配で発表ができないから」「いろいろなことができるようになったが、まだ自信をもって発表できないから」「発表がはずかしいから」など、自己表現に関わるものが多数挙げられていた。

そこで、教科を問わず、自分の思いや考えを表現するための手立てとして、様々な場面でペアやグループでの活動を取り入れ、自分の思いや考えを表現する機会を多くすることにした。

ペアやグループで意見交換すると、

- ・ 自分の考えと友達の考えを比べられるため、自信をもって全体の場でも発表ができる児童が増える。
- ・ 自分がわからないことを、友達の意見を参考にしながら考えられるため、問いに対して何らかの答えをもつことができる。
- ・ 何かを発言せざるを得ない状況になるため、恥ずかしがってはいられず、必然的に発言する機会が増える。

などの効果が期待できると考える。

これらのことを考慮し、教科を問わず、意図的にペア学習やグループ学習を取り入れていった。それらの学習をより効率よく、充実したものにするために、意図的に座席を配置したり、全員に司会者などの役割を経験させたりするなどの工夫も行った。すると、回数を重ねることに、型にはまった話し合いではなく、自分の考えを自由に述べ合えるものになってきた。



(3) 見通しをもって活動することを支援する掲示物の工夫

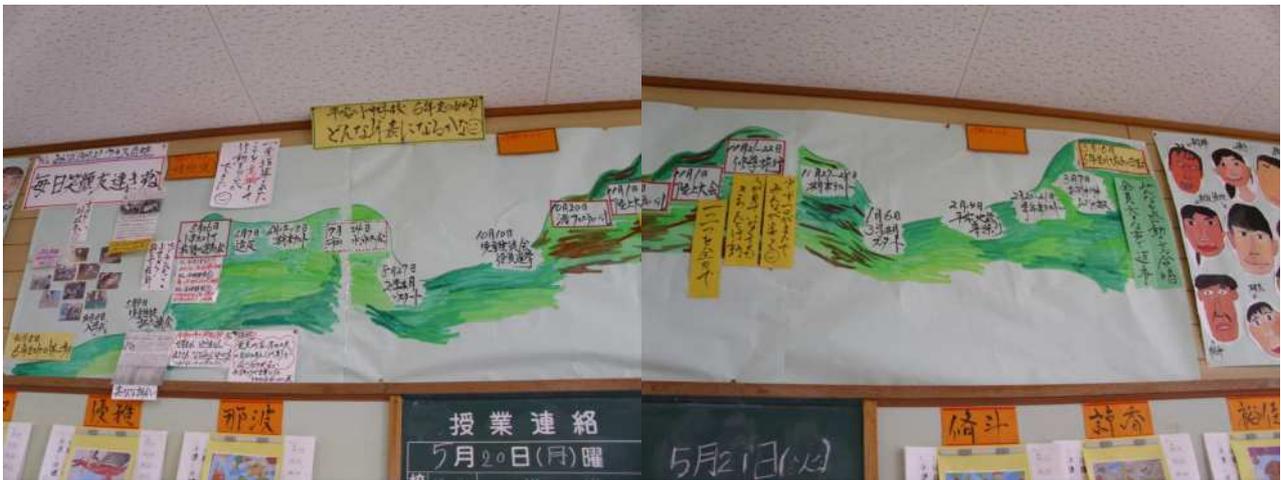


写真 【4月上旬の教室後方の掲示物】

4月の始業式の日、1年間の行事を書き込んだ掲示物(【写真 参照】)を提示し、「自分たちがこれからどのような学校行事や学習に取り組んでいくのか」という大まかな見通しをもたせた。そして、その日から、それぞれの活動に関する記録等をその掲示物に書き込んだり、関係する学級通信等を添付したりして、視覚的にクラス全体の成長の軌跡が分かるよう工夫した。写真 は2学期終業の日の掲示物である。教師のメッセージや学級通信、写真、行事の際に児童が書いたイラストなどを掲示している。



写真 【2学期終業の日の教室後方の掲示物】



また、児童が様々な授業で作成した作品(毛筆や硬筆、図工作品の写真、作文など)については、教室後方の壁にあらかじめファイルを貼っておき、そこに随時とじていくようにしている。最終的には、掲示できなかったものもまとめてファイルし、表紙を作成し、1年間の学習のあしあととして持ち帰らせる予定である。

月ごとに立てる自分の目標についても、いつでも確認できるように、教室側方の壁に掲示するようにした。

4月に、年間を通して達成したい目標と夢を書いたものと、顔写真を載せた用紙をファイルし、5月からは、その月の目標と、それを達成するためにやるべき具体策についてのみを書かせ、とじこませた。

中には、4月に書いた自分の夢が変わった児童もあり、「先生、書き換えてもいいですか?」と書き換える姿も見られた。

写真 【児童の作品掲示ファイルと月ごとの目標ファイル】

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 学習のつながりを意識した指導計画シートの作成及び授業実践について

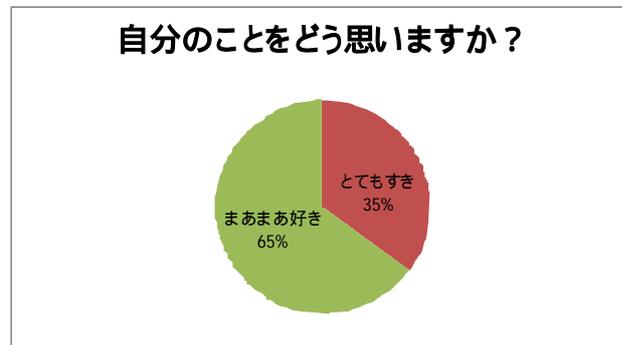
各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の年間指導計画を月ごとに配列した指導計画シートを作成したことで、どの時期に、どんな内容を指導すればよいか明確になり、キャリア教育で身に付けさせたい能力を効果的に身に付けさせることができた。

核となる体験活動を中心とした授業実践を行うために、年度当初から見通しをもって学習の準備や計画を進めた結果、児童が学習の轍を常にふり返りながら、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

(2) ペアやグループにおける表現活動の工夫について

教科を問わず、様々な場面で自己表現の場を意図的に設定したことで、意欲的に自分の思いや考えを表現しようとする児童が増えた。

4月にとったアンケートを12月にもう一度実施したところ、下のような結果となった。自分のことを否定的に捉えていた児童が減り、肯定的に受け止められるようになっていくことがわかる。その理由としても、「少し自信がついたから」「みんなの前でも発表ができるようになったから」などの記述が見られた。



(3) 見通しをもって活動することを支援する掲示物の工夫について

学びの轍が常に見えるような教室設営の工夫をしたところ、児童が自然と以前の学習をふり返ったり、自分の書いた目標を見返したりする姿が見られた。そのことが、教科を問わず、児童の発言の中にもたくさん聞かれるようになってきた。

2 研究の課題

(1) 学習のつながりを意識した指導計画シートの作成及び授業実践について

指導計画シートは、作成して終わりではなく、学級の特徴などが出よう項目を追加したり、育てたい力を明確にした上で、単元配列を入れ替えたりするなどの修正、工夫を今後もしていく必要がある。

つながりのある学習をしたことで、児童にどのような力が身に付いたのかを評価していく研究を今後進めていきたい。

(2) ペアやグループにおける表現活動の工夫について

ペア学習やグループ学習はあくまで方法であり、それ自体が目的にならないよう、それぞれの学習の目標やねらいに沿って今後も取り組ませていく必要がある。

(3) 見通しをもって活動することを支援する掲示物の工夫について

児童の学びの轍を残したいと思うあまり、どんなものでもただ掲示していくと、結局は何をしているのかがわからなくなるため、年度当初に教師が1年間の見通しをしっかりとって、掲示する内容を精選し進めていく必要がある。

～ 引用文献・参考文献 ～

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 (文部科学省)
平成13年度「科学技術に関する意識調査」結果 (文部科学省科学技術政策研究所)
平成25年度キャリア教育指導者養成研修資料